

第4回長久手市立地適正化計画策定委員会 議事録

議 事 概 要	
会議の名称	第4回長久手市立地適正化計画策定委員会
開催日時	令和5年11月27日(月)午後3時～午後5時まで
開催場所	エコハウス 多目的室
出席委員	<p>【学識経験のある者】 松本幸正、武田美恵、吉村輝彦、中居楓子（WEB）</p> <p>【交通事業者】 児玉朋孝、大野淳</p> <p>【市内商工関係者】 伊藤広治</p> <p>【市内福祉団体】 鈴木聖美</p> <p>【オブザーバー】 伊藤慎悟（代理：富永正輝）、山崎則幸（代理：高木直貴）</p>
事務局出席者	建設部長 磯村和慶、同部次長 矢野克明、同部開発調整監 奥祐子、都市計画課長 吉田学、同課課長補佐 山崎暢之、同課主任 日比野瑞樹、同課主事 稲森
傍聴者人数	0人
会議の公開・非公開	公開
審議の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・長久手市立地適正化計画（素案）について ・今後のスケジュール
問 合 先	長久手市建設部都市計画課 内線324

1 あいさつ

都市計画課 吉田課長より挨拶

2 長久手市立地適正化計画（素案）について

（オブザーバー）

リニモの駅は誘導施設に設定しないという説明だったが、51ページ、誘導施設の設定方針にはリニモの駅が記載されている。誘導施設に位置づけるということでよいか。

（事務局）

リニモ駅は誘導施設に設定しない。51ページの表は誘導施設候補の立地状況として整理をしており、52ページの表で実際の誘導施設を設定しているが、ここではリニモの駅は除外している。

（委員）

56ページ誘導施策の重点方針に「DXの推進」があるが、個別施策ではDX関連の記載が少ないように思う。例えば災害対応でいち早く復興するためにはDXを活用した被災状況の把握が必

要になってくると思うが、記載がない。

(事務局)

今回の委員会までに、DX 推進を念頭におきつつ、各課のヒアリング、作業部会等で記載の検討をした結果、現在の施策を記載している。DX 推進を始めとした、56 ページの「重点方針」は施策を展開するうえで引き続き検討する意味も含め記載している。

(委員長)

DX 推進に絡めた施策として、58 ページ「各拠点の特性を踏まえた核となる公共施設の維持充実」に「デジタル技術の活用等による施設利用者の利便性向上を引き続き推進していきます」や、64 ページ「健康 WEB サービス（アプリ）を導入し」、59 ページ「DX やふるさと納税を活用したクラウドファンディングなどの活用」等に記載があり、十分施策として検討、反映されていると思われる。

(委員)

例えばNバスの効率的な運行のために、予約制の検討、需要のある路線の特定など、データを活用した出来ることではないか。もう少し、DX についての記載を増やすと良い。

(委員長)

DX や情報技術を使った公共交通の利便性向上は近年かなり進んでいると思う。名鉄バスでも情報技術の活用を検討されていると思うが、実用化までは少し遠いのかなという気がしている。

(委員)

こちらでは、ダイヤの遅れ、乗降データ等は、manaca の情報を活用し把握している。

ただ、定時定路線の運行モデルと、委員のいうデマンド交通は、別物だと思う。定時定路線の運行モデルは決められた時間に決められた場所を走るという、安心感も含んだサービスかと思う。

デマンド交通への一部転換を検討する意味では、データを活用することは非常に重要だと思う。

(委員長)

デマンド交通という話だと、66 ページに「市民参加型の利用促進・移動支援」に「また、デジタル技術を活用したマッチングの仕組みを検討します」の記載がある。

(委員)

92 ページまちづくり指標の設定で「居住誘導区域内において自主防災組織が設置されている地区数」と「災害に強いまちであると思っている市民の割合」の2つの指標は矛盾する可能性があると考え。具体的には市民の防災意識が向上すると、より正確にリスク認知が出来るようになるため、長久手市が災害に強いまちであると思っている市民の割合が減ってしまうのではないかと。

(事務局)

前提として、「効果を測る指標」は定期的にモニタリングが可能なものとしている。

その上で、92 ページの防災の居住に係る効果を測る指標については、長久手市の市民意識調査内の防災に係る設問を採用した。

(委員長)

長久手市は決して災害に弱いまちではないのに、強いまちであると思っている市民の割合が低いのが少し気になるが、これは、設問が、「災害に強いまちか」ではなく、「長久手市の防災施策、防災事業への満足度」を聞いているものだからだと思う。計画の進捗を測る指標の「居住誘導区

域内において自主防災組織が設置されている地区数」は、自主防災意識の向上や自主防災組織設置に係る防災施策等の指標であるため、防災施策が進んでいるかを聞いている、効果を測る指標の「災害に強いまちであると思っている市民の割合」とリンクする。

(委員)

そうした理由であれば、矛盾しないと思う。定期的なモニタリングが可能な指標設定が必要であるということも理解した。

(委員)

指標には現況値、目標値に加えて現在までの推移も記載すると良い。定期的なモニタリングが可能な指標を設定したと思うが、最適な回答を導き出すための、市民意識調査の設問の変更は今後検討しないのか。

(事務局)

推移についても参考資料として整理する。

市民意識調査の設問変更等については、担当課と情報共有する。

(委員)

56 ページ誘導施策の重点方針の記載順に理由はあるのか。

個別の誘導施策についても記載順を工夫し、見出しや番号を付けて、分かりやすく表現すると良い。

(事務局)

誘導施策の重点方針の記載順は特に決まっているわけではない。58 ページ以降の誘導施策は34 ページ「立地適正化計画に関する方針及び取組方針」の順に記載している。そこからさらにハード施策、ソフト施策の順となるように記載している。

(委員長)

説明を受けないと分からないというのが問題かと思う。34 ページ「立地適正化計画に関する方針及び取組方針」と58 ページ以降の誘導施策が対応するよう、番号を追加すると良い。

また、誘導施策の重点方針と個別の誘導施策の対応関係を別途整理すると良い。

(事務局)

そのように、再整理する。

(委員)

34 ページ「立地適正化計画に関する方針及び取組方針」では黄色が対応が求められている情勢変化で、ピンクが今後も伸ばしていくべき長久手らしさと記載がある。58 ページ以降のスタンプの凡例が全て都市構造上の課題となっているため、分けて記載すると良い。

(事務局)

そのように、修正する。

(委員長)

今回、90 ページ「8.計画の進め方」が大きく変わっており、計画の実現に向けてのサイクルが明確に位置付けられている。これに関しても、ご意見等いただければと思う。

(委員)

計画に基づき目標に向かって一直線に進めるフローではなく、「少しずつ」、「試しながら」進めていくという考え方はこれから立地適正化計画においても必要になってくるため、その考え方を見える化することは大事なことだと思う。

例えば、取組の実践後に最初に戻るような矢印も追加し、循環的なフローであることを分かりやすく表現すると良い。

また、図：計画の実現に向けたフローの「まちづくりを想像する」とあるが、まちづくりを想像は表現として違和感があるため変更すると良い。

(事務局)

計画の実現の前で波線にし、その上から矢印が出て、上に戻り計画の実現に向けてのスタート地点につながるような表現が考えられると思う。

ご指摘いただいたことが表現できるよう、記載を修正する。

(委員長)

図：計画の実現に向けたフローの「まちづくりを想像する」は上記の文章と合わせ「市民等がまちづくりの進め方を想像し発信」に表現を変更すると良い。

(委員)

指標の設定について、「居住誘導区域内において自主防災組織が設置されている地区数」ではなく、避難行動要支援者に関連した指標を設定するという考え方もあると思う。避難行動要支援者には高齢者や障がい者だけではなく、外国人や妊婦も含まれており、いざとなったら共助が機能するという安心感を市民に感じてもらうことが大事だと思う。

(事務局)

避難行動要支援者の個別避難計画の策定は、福祉部局、防災部局で連携し進めているところであると聞いている。その上で、本計画では64ページに個別避難計画の作成を推進するという施策を記載している。

ただ、92ページの指標は、本計画が人口集積を目的とした計画であることから、居住誘導区域内への人口集積が測られているか、人口集積が測られている区域において防災減災対策が進んでいるかを測るものとして設定した。

(委員長)

避難行動要支援者はいざとなったら、地区の自主防災組織を中心に共助・公助により支援されるということが分かると安心感に繋がるのではないか。

(事務局)

各自主防災組織は母体が自治会等である。自治会が一定の期間に規定回数以上の自主防災訓練を実施すると本市から資機材及び倉庫の貸与を実施しており、貸与を受けた自治会等を自主防災組織と呼んでいる。

そのため、各自主防災組織が避難行動要支援者まで把握しているケースは少ないと思われるが、各自治会の取りまとめ役である自治会連合会等であれば、提供に同意した方のみではあるものの、避難行動要支援者名簿の提供を受けており、名簿を使用した訓練等を実施していると聞いている。

(委員長)

そういう意味では、今、委員が言われた避難行動要支援者に関する施策等は福祉部局、防災部局が中心となって対応する内容かと思う。防災指針では居住誘導区域内のリスクの認識をしてもらうことに重点を置き自主防災組織の設置数を指標にしたということだと思う。

(委員)

立地適正化計画の策定後は誘導施策等に基づき市役所内部での動きや市民活動が具体的、活発になっていくことも計画の一義であると感じた。

(委員長)

立地適正化計画の検討で市の若い職員の意見交換の場があったことは非常に良いことだと思う。計画策定後も若い人たちの意見の交換の場を続けていくと良い。

また今後、具体の施策が進んでいくので、進捗管理という面にも市民の方々に興味を持ってもらうことが大事だと思う。

(オブザーバー)

計画書は非常に視覚的で、分かりやすいものを作成出来ていると感じた。

自主防災組織には、防災・減災という意味合いに加えて、活動を通じて地元の人同士の繋がりが出来るという側面もあるため、指標に設定することは良いと思う。

(委員)

92 ページの「まちづくりのねらい」と「まちづくり指標」の対応関係が分かりづらく、設定理由が直観的に理解できない。

(事務局)

「拠点形成」は都市機能誘導区域の形成に対しての指標として、拠点の形成が図られているかを測るため「誘導施設数」、「住宅地形成」は居住誘導区域での住宅地形成に対しての指標として、人口の集積が図られているかを測るための「人口密度」、併せて防災減災対策が図られているかを測るため「自主防災組織」、「公共交通」は公共交通に対する指標として、公共交通の利便性等が向上しているかを測るための「利用者数」という観点で設定している。

(委員)

説明をいただければ十分理解できるが、市民の方は直観的に理解できないのではと思う。

(委員長)

指標とまちづくりのねらいの対応関係が分かりづらいため、設定理由を別途で整理すると良い。

公園は長久手の独自の特徴的な誘導施設のため、他の誘導施設と併記しても良い。

(事務局)

指摘いただいたことが表現できるよう、記載を修正する。

(オブザーバー)

54 ページの公園の写真は見栄えするものに差し替えると良い。

(事務局)

修正する。

(委員長)

修正点についてまとめると、以下の通りとなる。

34 ページ、58 ページ以降、誘導施策と立地適正化計画に関する方針及び取組方針との対応関係が分かるよう、番号をつける。また、56 ページの重点方針との関連について再整理を実施する。58 ページ以降のスタンプの凡例を修正する。

53 ページ誘導施設に設定した公園の表は 52 ページの下部に記載する。

90 ページ図：計画の実現に向けたフローは、循環的な構造が分かるように一番上に戻るような線を加える。

92 ページ「まちづくり指標」の現況値、目標値に加えて、過去の推移を記載する。

92 ページ「まちづくり指標」の設定理由を整理する。

54 ページ杵ヶ池公園の写真は見栄えするものに差し替える。

3 今後のスケジュールについて

事務局より説明

以上